2023.12.15

東海大学学園史ニュース

Tokai University Educational System Archives News

No.18

江尻で多くの客を乗せ、塚間の海水浴場へ向かってくるポンポン船（1956年撮影、『写真が語る　静岡市の100年』いき出版刊行より）

1930年ごろ、折戸湾を行き来していた旧清水市営の渡し船（株式会社カナサシ重工提供）

❖ 通学船、今昔 ❖

東海大学の前身・航空科学専門学校は 1943 年 4 月、静岡県清水市（現静岡市清水区）に開校した。 1 期生として入学したのは物理学科 77 名、航空学科 95 名に選科生 1 名を加えた 173 名。寄宿舎制を採用し、航空学科は三保半島の突端に近い仮校舎の 2 階を寮としていたが、物理学科は折戸湾を挟んだ鉄舟寺を寮としていた。

物理学科生は、鉄舟寺から桟橋（現「日の出のりば」）まで約 3 キロ歩き、渡し船で対岸の塚間へ。さらに 3 キロ歩いて仮校舎へと通った。片道 1 時間半、往復 3 時間かかったという。同年 11 月末には市内の駒越に本校舎が竣工し、鉄舟寺から片道 30 分ほどで歩ける距離となった。

さて、この「塚間の渡し」、古くは鎌倉時代から、御穂神社への参拝者や名勝三保松原への遊山客らを乗せていた歴史ある渡し船である。物理学科生が利用した 1943 年前後は、他の多くの渡し船と同じく、焼玉エンジンが発するリズミカルな音から「ポンポン船」と呼ばれ、市民の足として活躍していた。

時は流れ、21 世紀。東海大学では 2022 年 4 月から、清水駅（江尻のりば）と静岡キャンパス（折戸のりば）をつなぐ「通学船」の運航を開始した（富士山清水港クルーズ株式会社に委託。利用は原則、学生や教職員ら関係者のみに限られる）。乗船時間は 20 分ほどだが、キャンパスから駅に向かう帰りの便は「日の出のりば」を経由するため、若干長くクルーズを楽しむことができる。

80 年前の先輩たちも、鎌倉時代の旅人もきっと、船上から同じ霊峰を仰ぎ見たことだろう。

原則として通学船には各日、第 1 便でベイプロムナード号（写真）が、2 便以降は小型の水上バスが用いられる（富士山清水港クルーズ株式会社提供）

CONTENTS

02 学園史資料センター10年のあゆみ　2013～2022年度
08 Tokai Fashion Club 13th meeting 付属静岡翔洋小学校・幼稚園

学園史資料センター10年のあゆみ　2013～2022年度

学校法人東海大学学園史資料センターは2003年4月に発足しました。以来20年間、学園の歴史を記す資料を収集・整理・保存・活用するために活動。2014年3月にはそれまでの活動をまとめた『10年のあゆみ』を刊行しています。今回の特集ではその後の10年間、2013年度から2022年度における活動について振り返ります。

▶2003年4月の開設から2012年度までの10年間の活動をまとめた『学校法人東海大学学園史資料センター10年のあゆみ』。頒布希望の方は巻末記載のメールアドレスまで連絡を

2013
75周年記念誌の編纂活動が本格化

学校法人東海大学の建学75周年（2017年）を控え、各種の記念事業の準備が本格化。学園史資料センターは、記念誌編纂の方向性を定める「学校法人東海大学建学75周年記念誌編纂委員会」と、記念誌編纂の実務を担う「東海大学七十五年史編集委員会」、両委員会の事務局を担当しました。七十五年史編集委員会に関しては原則として月1回の頻度で会合を開催。編纂・執筆作業全体のスケジュール管理を行うとともに、各委員の執筆・校正作業を支援するため資料の収集や提供などを行いました。

2014
組織変更　望星学塾に移管

2014年4月1日付で、学校法人東海大学学園史資料センターは学校法人東海大学望星学塾に移管されました。どちらもともに、従来から法人直轄機関でしたが、学園史資料センターと望星学塾の事務系統を一本化することで、今後さらなる煩雑化が見込まれていた建学75周年記念誌編纂に関わる事務作業の負担を軽減するための措置でした。

2015
同窓会館から5号館に移転

東海大学湘南キャンパスの北門そばに隣接し、学園関連のさまざまな組織が↗

2013年10月2日、第3回七十五年史編集委員会の会合

2015年10月、同窓会館から湘南キャンパス構内へ移転。倉庫への資料搬入

2016年2月、入居していたすべての組織が退去し、取り壊される同窓会館

2016年春、念願叶って独自で運用が可能な展示施設が開室

2017年7月、湘南5号館からG館へおよそ8カ月間の仮移転

↘入居していた「同窓会館」。学園史資料センターも発足直後の2003年7月から、事務室や収蔵庫を同建物内に置いてきましたが、老朽化などの理由から取り壊しが決定。2015年10月5日、当センターは湘南キャンパス構内（事務室は5号館2階、主たる収蔵庫は旧第2水理実験室を改修した共用倉庫）に移転することとなりました。10年以上の歳月をかけて収集してきた資料を移動させる必要があり、特に荷造り作業にかかる時間と労力は膨大なものとなりました。

2016
学園史展示室が開室

前年度の移転に伴う副産物として、学園史資料センターが独自に運用できる展示室の割り当てを受けました（5号館2階）。展示内容の企画、展示物品の選定、写真パネルの作成などの準備期間を経て、2016年3月24日に開室。開室を記念し、テーマを「キャンパスの記憶―湘南キャンパスの歴史―」として企画展をスタートさせました。

2017
建学75周年　仮移転と『図録』刊行

2018年度から新設される健康学部の拠点が、湘南キャンパス5号館に置かれることが決定しました。5号館の改装作業を行うため、資料センター事務室等は2017年7月10日から同じ湘南キャンパス内、約150メートルの距離にある研究実験館G館に仮移転。約8カ月を経た

2018年3月6日に5号館に戻りました。

この仮移転期間中、建学75周年記念誌の第1弾として『図録　東海大学75年』を刊行。11月4日に東海大学校友会館で開催された建学75周年記念祝賀会の来場者に配布しました。

2018

『東海大学七十五年史』刊行

前年度刊行の『図録』に続き、『東海大学七十五年史　通史篇』『同　部局篇』の刊行に向け、編纂作業が進められました。11月1日付で刊行、2019年1月に納品。七十五年史編集委員会は2018年12月31日付で解散となりましたが、反省会で委員らは口々に「100周年はすぐにやって来る」「『百年史』に向けて、日々の積み重ねが大切」と語りました。

2019

高等教育機関の改革の狭間で

学園の高等教育機関が大規模な改革を実施、あるいはその準備に取り掛かったのがこの時期でした。

まず動きがあったのが、学園傘下の短期大学です。福岡短期大学は2018年2月に最後の卒業生を輩出して閉学。短期大学部（静岡校舎）と医療技術短期大学は2019年度入学生を最後に、募集を停止しました（閉学は前者が2020年度末、後者が2021年度末）。

これに加えてこの年度、東海大学が全学的な改組改編の構想「日本まるごと学び改革実行プロジェクト」を発表。その中核は建学80周年にあたる2022年度に新学部の設置や学科を再編することにありましたが、準備段階として2021年度に学部や研究所、センターを学問分野ごと、あるいは地域ごとにまとめる「カレッジ制」が導入され、事務組織も抜本的に改編されました。

これら一連の動きから、当センターへの移管資料が大幅に増加したのです。

2018年11月、湘南9号館とD館、H館が取り壊される様子を、建築写真家の山田新治郎氏とともに記録撮影

2019年1月、『東海大学七十五年史』が完成し、編集委員長から総長、理事長に贈呈

年史編纂作業の完了を受けて、資料の集中整理作業を実施。2020年1月

学園傘下の短大が相次いで閉学。短期大学部静岡校舎で教鞭を執った故市川正三教授が遺した絵画などについて調査。2022年3月

2022年7月、コロナ禍のため対面では2年3カ月ぶりとなった全体業務打ち合わせを実施

2023年2月、医学部付属大磯病院の業務終了に伴い、看板撤去作業を撮影

2020

コロナ禍に対応しテレワーク体制

新型コロナウイルスが猛威を振るい、4月には緊急事態宣言が発令されました。これに対応し、当センターでは事務室に詰めるスタッフを1～2人に削減、他の者は自宅などで勤務するテレワーク体制を敷きました。業務の遅滞など支障もありましたが、普段なかなか取り組めない作業に、在宅でじっくりと向き合える、貴重な機会ともなりました。

2021

デジタル展示室がオープン

2016年度に開室した展示室は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い2019年度末から閉室していました。加えて、2022年度の全学的な改組改編に伴い、2021年度以降、同展示室の割り当てを受けられないこととなりました。

こうした背景から当センターでは、2021年11月1日、インターネット上に「学園史デジタル展示室」を開設。パソコンやスマートフォンなどから、いつでもどこでもどなたでも、学園史に触れていただけるようになりました。

2022

資料整理の推進へスタッフ増員

コロナ禍にあっても、資料の移管・受け入れは止まることはありませんでした。半面、2020年度、2021年度はテレワーク体制を余儀なくされたこともあり、資料整理のペースはダウンせざるを得ませんでした。

2022年度、当センターは資料整理を担当する専属スタッフを3名増員。その習熟と整理業務の推進を図っています。

建学100周年へ向け、力強く前進する学園。その活動をつぶさに見つめ、歴史を未来へと紡ぐために。★

学園史資料センター10年のあゆみ　2013～2022年度

≫資料の受け入れと整理≪

2013年度から2022年度の10年間に学園史資料センターが受け入れた資料は1,332件でした。この件数は、一度に段ボールで30箱届いても1件、封書1通でも1件と数えます。また、同一の提供元から春と秋、月初と月末など、間隔を開けて受け入れた場合は、それぞれ1件と数えます。

それら受け入れ資料について、この10年間で整理（データベース「受入台帳」に登録）した点数は31,631点でした。この数字には年度末に受け入れ、整理を翌年度以降に持ち越したケースもあるため、「1,332件受け入れた中に31,631点の資料が含まれていた」ことを示すものではありません。

また、書籍や刊行物などについては「受入台帳」とは別のデータベース「刊行物受入台帳」に登録しています。この10年間で受け入れた書籍や刊行物等は合計10,025種、16,428点。そのうち学園関連は5,195種、11,305点となっています（それ以外は他大学、企業、自治体などが発行したもの）。

◉ 2013～2022年度の資料受け入れ・整理状況

年度	受入件数	整理点数
2013	274	8,950
2014	260	4,035
2015	173	1,746
2016	199	1,884
2017	154	1,140
2018	115	1,792
2019	49	3,935
2020	40	837
2021	27	435
2022	41	6,877
計	1,332	31,631

※年史編纂作業の完了を受け、2019年度に資料の集中整理作業を実施。コロナ禍を経て2022年度には資料整理専属スタッフを増員、その成果が数字に表れている

◉ 2013～2022年度の刊行物受け入れ状況

年度	受入種類	受入点数	学園種類	学園点数
2013	1,533	2,515	878	1,823
2014	1,454	2,297	754	1,542
2015	1,236	1,945	686	1,357
2016	1,289	2,322	740	1,740
2017	1,004	1,779	543	1,295
2018	1,078	1,811	624	1,331
2019	995	1,500	420	905
2020	402	679	159	425
2021	446	725	161	417
2022	588	855	230	470
計	10,025	16,428	5,195	11,305

≫資料目録の公開≪

当センターでは2012年10月31日付で、学園史資料の目録の一部をインターネット上で公開しました。この「所蔵資料目録検索システム」では、利用者が目当ての教育機関や年代、形態（文書や写真、音声や動画などの種類）、あるいはフリーワードを選択・入力し、検索できる機能を搭載していました。

公開当初の登録件数は11万6,053件。随時リストを追加し、2020年2月の時点で20万1,823件となりました。

しかし、2020年12月に不具合が発生。復旧が叶わず、システムを停止しました。

今後は別の手段で目録を公開するため、検討を重ねています。

▲目録検索システムのトップ画面。「資料・刊行物・写真検索」と「目次・見出し・記事検索」の二通りの入口があり、ウェブ上で資料の利用（閲覧・複写）の申請もできた◀利用の手引きリーフレット▼システムにリンクするバナーの画像

≫スタッフ一覧≪

2012年度から3代目となる橋本敏明センター長が就任。同時に副センター長のポストが置かれました（2019年度末まで）。また2014年度から2018年度までは、『東海大学七十五年史　通史篇』の本文の執筆を担当する「学園史資料センター付」の教員が就任しました（計5名、いずれも兼務）。

この10年の間に常勤職員は5名から減って4名に。2022年度末時点での非常勤職員の合計は13名となっています。

年度	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
センター長										
橋本敏明	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
副センター長										
沓澤宣賢	●	●	●	●	●	●				
平野葉一							●			
センター付										
馬場弘臣		●	●	●	●	●				
大島宏		●	●	●	●	●				
杉本淨		●	●	●	●	●				
立石謙次		●	●	●	●	●				
吉田晃章		●	●	●	●	●				
常勤職員										
椿田卓士	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
高橋祐子	●	●	●	●	●	●	●	●		
中西祐悟	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
目七哲史	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
徳原彩恵	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
非常勤職員	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
相原秀子	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
石坂道代	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
大平愛美	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
岡崎佑也					2019.8.5～		●	●	●	●
神谷大介	●	●	●	●	●	●	●	●		
菊地悠介	●	●	2009.2.25～2015.3.30							
木村みさこ	●	●	●	●	2013.10.2～2017.3.20					
鈴木純斗							2022.10.21～			●
高橋祐子									●	●
塚越俊志	●	●	2013.7.26～2014.8.6							
土井美智代	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
外山裕子							2022.10.25～			●
中島隆幸							2022.4.4～			●
星隆弘	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
松浦愛	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
松尾繁子	●	2013.5.23～2013.8.8								
丸島隆雄					2019.8.2～		●	●	●	●
吉田学史			2019.8.6～2022.6.27				●	●	●	●
渡辺真治	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

※順不同。非常勤職員に関して、年度の途中で着任・離任した場合その時期を示した。

≫施設・設備≪

2003年4月に東京・渋谷の東海大学代々木キャンパス（現渋谷キャンパス）で開設した学園史資料センターは、同年7月、神奈川県平塚市の東海大学湘南キャンパスに隣接する同窓会館へ移転しました。

10年以上にわたって同窓会館を拠点に活動を展開してきましたが、2015年10月に湘南キャンパス構内へと移転。事務室は5号館、収蔵庫は5号館および旧第2水理実験室を改修した倉庫（他の部署と共用）に置かれることとなりました。

2017年7月には事務室等が研究実験館G館へ仮移転（メインの収蔵庫は旧第2水理実験室のまま）。約8カ月後の2018年3月に5号館へ戻りました。これを機に、それまで5号館内の1階、2階、3階に分散していた各部屋が集約されています（1階の東側に保管庫と資料室が計5部屋、2階の南側に事務室と年史編纂室、学園史展示室）。

2019年度末をもって学園史展示室が閉室となり、現在に至っています。

※2017年の湘南キャンパス航空写真。黄色でマークした場所が同窓会館の跡地、赤が5号館、青が旧第2水理実験室の共用倉庫、緑が研究実験館G館

◉学園史資料センター　占有面積の変遷（湘南のみ）

	利用時期▶	2003.7 ～	2015.10～	2017.7 ～	2018.3 ～	2020.4 ～
▼用途	建物名称▶	同窓会館	5号館	G館	5号館	5号館
事務室関係	事務室	108.00㎡	90.00㎡	90.00㎡	90.00㎡	90.00㎡
	展示室	—	45.00㎡	—	45.00㎡	—
	その他	210.00㎡	112.25㎡	135.00㎡	—	—
	合計	318.00㎡	247.25㎡	225.00㎡	135.00㎡	90.00㎡
年史編纂室		36.00㎡	45.00㎡	45.00㎡	45.00㎡	45.00㎡
収蔵庫関係	温湿度管理あり	171.00㎡	148.00㎡	315.00㎡	248.75㎡	248.75㎡
	温湿度管理なし	57.00㎡	194.00㎡	194.00㎡	194.00㎡	194.00㎡
	前室	482.00㎡	—	—	—	—
	合計	710.00㎡	342.00㎡	509.00㎡	442.75㎡	442.75㎡

※水色で示した「2015年10月以降」「温湿度管理なし」の収蔵スペースはいずれも旧第2水理実験室（共用倉庫）

≫レファレンス対応≪

2013年度から2022年度までの10年間で、当センターに寄せられたレファレンスの総数は1,399件でした。2021年度以降の件数が大きく減っているのは、カウントの方法を変更したためです（2020年度までは一つの事案に対して、写真提供で1件、初校原稿の校正で1件、再校正で1件などとカウントしていたケースがありましたが、2021年度以降は原則、それらを合わせて1件としています）。

1,399件のうち、およそ6割の856件で資料の複写提供を行っています。「1984年度の授業料を知りたい」「付属○○高校の記念碑はいつ建立されたか」などと問い合わせがあった場合、それぞれの回答に資料の複写を添えて提供するため、自ずと数が増えます。閲覧の目的で訪問した方が、資料の一部を複写してほしい、というケースも多いです。このようなケースは「閲覧」と「複写」両方でカウントするため、レファレンスの総件数と内訳の延べ合計数が異なっています。

「その他」には「○○に関連した資料はあるか？」といった照会に、残念ながら「所蔵なし」と回答するようなケースや、逆に「組織の30周年を記念して、冊子の編集や展示会の実施などに向けて、相談に乗ってほしい」といった複合的なレファレンスが含まれています。

レファレンスに対応することは所蔵資料の活用や新たな資料の収集につながり、所蔵資料の充実と的確な整理がレファレンスの精度向上につながります。当センターでは今後も、資料の収集・整理とレファレンス対応を両輪とし、学園の歴史と未来に向き合っていきます。

◉学園史資料センターに過去10年間で寄せられたレファレンス件数とその内訳

年度	件数
2013	173
2014	175
2015	137
2016	121
2017	159
2018	143
2019	169
2020	157
2021	95
2022	70
計	1,399

内訳	件数
複写	856
閲覧	48
貸出	14
校正	142
その他	372
計	1,432

※1件のレファレンスで閲覧と複写などを行うケースもあるので、レファレンス総件数と内訳の延べ合計数は異なる

学園史資料の「収集」「整理」「保存」から、「公開」「活用」へ。次ページではその具体例である展示活動と、印刷・刊行物を紹介 ☞

≫主催展示会一覧≪

※「東海大学サテライトオフィス」は「東海大学サテライトオフィス地域交流センター」の略称。2004 年 6 月、湘南キャンパスの最寄り駅・小田急線東海大学前駅そばに開室し、2017 年 4 月 1 日付で「TOKAI クロスクエア」と改称。2019 年 3 月 16 日閉室。

回数	会期	タイトル	会場	備考
18	2013 年 4 月 1 日 ～6 日	東海大学の歴史を探る Vol.12　沼津キャンパスのあゆみ	東海大学サテライトオフィス	パンフレットあり 映像あり
19	2013 年 8 月 6 日 ～ 10 日	東海大学の歴史を探る Vol.13　1963 OPEN 湘南キャンパス	東海大学サテライトオフィス	映像あり
20	2013 年 10 月 29 日 ～ 11 月 29 日	キャンパスに描いた夢～湘南の半世紀	東海大学湘南キャンパス 11 号館 図書館展示室	写真集あり
21	2013 年 10 月 29 日 ～ 11 月 4 日	東海大学の歴史を探る Vol.14　昭和の情景～湘南キャンパスのできた頃～	東海大学サテライトオフィス	
22	2013 年 11 月 1 日 ～ 3 日	松前重義と山田守	東海大学湘南キャンパス松前記念館 1 階エントランス	
23	2013 年 11 月 5 日 ～ 2014 年 4 月 8 日	昭和の情景～湘南キャンパスのできた頃～	東海大学湘南キャンパス同窓会館 学園史資料センター事務室外通路	展示№ 21 を再構成
24	2014 年 4 月 1 日 ～ 8 日	東海大学の歴史を探る Vol.15　アーカイブズってなぁに？ 学園史資料センターのお仕事	東海大学サテライトオフィス	
25	2014 年 4 月 9 日 ～2015 年 9 月 18 日	アーカイブズってなぁに？　学園史資料センターのお仕事	東海大学湘南キャンパス同窓会館 学園史資料センター事務室外通路	展示№ 24 を再構成
26	2014 年 10 月 30 日 ～ 11 月 6 日	東海大学の歴史を探る Vol.16　東海大学建学祭第 60 回記念展示会 建学の灯よ！永遠に…　～湘南キャンパス建学祭のあゆみ～	東海大学サテライトオフィス	
27	2016 年 3 月 24 日 ～ 9 月 30 日	展示室開室記念展示　キャンパスの記憶―湘南キャンパスの歴史―	東海大学湘南キャンパス 5 号館 2 階 学園史資料センター展示室	パンフレットあり
28	2016 年 10 月 24 日 ～2017 年 3 月 31 日	東海大学開学 70 周年記念展示 先駆けであること。―東海大学の歩み―	東海大学湘南キャンパス 5 号館 2 階 学園史資料センター展示室	
29	2017 年 4 月 2 日 ～ 5 月 31 日	期間常設展　キャンパスの記憶―湘南キャンパスの歴史―	東海大学湘南キャンパス 5 号館 2 階 学園史資料センター展示室	
30	2017 年 10 月 31 日 ～ 11 月 3 日	学校法人東海大学建学 75 周年記念企画展 東海大学 75 年　写真から見る 75 年の歩み	東海大学湘南キャンパス 4 号館 1 階 通路	
31	2018 年 3 月 30 日 ～ 11 月 3 日	期間常設展　キャンパスの記憶―湘南キャンパスの歴史―	東海大学湘南キャンパス 5 号館 2 階 学園史展示室	
32	2019 年 3 月 20 日 ～7 月 19 日	期間常設展　先駆けであること。　東海大学の歴史とスポーツでの活躍	東海大学湘南キャンパス 5 号館 2 階 学園史展示室	
33	2019 年 8 月 1 日 ～ 11 月 3 日	期間常設展　キャンパスの記憶―湘南キャンパスの歴史― 小展示「学園オリンピックスポーツ大会のあゆみ」	東海大学湘南キャンパス 5 号館 2 階 学園史展示室	
34	2019 年 12 月2日～ 2020 年3月 13 日	歴史ある付属高校	東海大学湘南キャンパス 5 号館 2 階 学園史展示室	
35	2021 年 2 月 2 日 ～実施中	アーカイブズってなぁに？　学園史資料センターの仕事	東海大学湘南キャンパス 5 号館 2 階 学園史資料センター事務室前廊下掲示板	展示№ 24 を再構成
36	2021 年 11 月 1 日 ～公開中	創立者生誕 120 年・没後 30 年特別企画展 創立者松前重義と建学の同志たち	学園史デジタル展示室	パンフレットあり
37	2022 年 9 月 8 日 ～公開中	松前重義 野球殿堂入り記念企画展 松前重義・世界平和へのプレイボール	学園史デジタル展示室	
38	2022 年 10 月 31 日 ～公開中	建学 80 周年記念企画展 「若き日に汝の～」の呼びかけを心に受け止める	学園史デジタル展示室	
39	2023 年 10 月 31 日 ～公開中	湘南キャンパス開設 60 周年記念企画展 みらいへ、つむぐ　キャンパスの記憶―湘南キャンパス60年のあゆみ―	学園史デジタル展示室	

当センターでは旧サテライトオフィスや図書館の展示室などを借用して展示企画を行ってきました。同窓会館から 5 号館への移転を機に展示室の割り当てを受け、2016 年 3 月より企画展示を開催しました（仮移転中は閉室。5 号館に戻った 2018 年 3 月、「学園史展示室」に改称）。

しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響や大学の改組に伴う施設の転用などで同展示室は 2019 年度末をもって閉室。2021 年 11 月からはインターネット上に「学園史デジタル展示室」を開設し、企画展を開催しています。デジタル展示は原則、公開期限を設けず、順次コンテンツを増やしていく予定です。

≫印刷物・刊行物≪

年 1 回発行の『東海大学学園史ニュース』『東海大学資料叢書』に加え、展示企画の告知ポスターおよびチラシ、図録等を制作しています。また、2014 年度から 2018 年度にかけては、「建学 75 周年記念誌編纂委員会事務局」として『東海大学七十五年史編纂だより』の編集・発行を行いました（全 6 号）。

◀「創立者松前重義と建学の同志たち」は紙媒体で図録も作成

▶『七十五年史編纂だより』

▼構内のモニュメント等を紹介した「湘南キャンパス散策マップ」

学園史資料センター Information

「デジタル展示室」に新コンテンツ 湘南キャンパス60周年を記念して

学校法人東海大学学園史資料センターがインターネット上に開設している「学園史デジタル展示室」では2023年10月31日、「みらいへ、つむぐ　キャンパスの記憶―湘南キャンパス60年のあゆみ―」と題した企画展を公開しました。1963年に開設された湘南キャンパスが60周年を迎えることを記念したものです。

神奈川県の平塚市と秦野市にまたがる湘南キャンパス。学園の創立者松前重義は、なぜこの土地を選定したのか。松前の理想を実現するため、建築家・山田守はどのように奔走したのか。60年の歴史を振り返りながら、湘南キャンパスに込められた思いを探ります。

1990年ごろの湘南キャンパス

パソコンやスマートフォンなどから、いつでもどこでもどなたでも、ご来場いただけます。

◉学園史デジタル展示室 URL
（QRコードはこちら→）
https://www.tokai-archives.com/exhibition/

学園史資料センター日録（抄録）　2022年4月～2023年3月

【2022年4月】
1日　テレワーク体制②（事務室に出勤する者を原則2名に制限、他のスタッフは在宅勤務）に移行（～2023年5月7日）
28日　全国大学史資料協議会（大学史協）東日本部会第204回幹事会出席（オンライン形式）

【5月】
26日　東海大学海洋学部総合資料センターにて収蔵資料点検作業（於静岡県静岡市）

【6月】
2日　大学史協東日本部会2022年度総会、第205回幹事会参加（対面＝於東京都千代田区・専修大学神田キャンパスとオンラインのハイブリッド形式）
3日　全国歴史資料保存利用機関連絡協議会（全史料協）関東部会2022年度総会、記念講演会参加（オンライン形式）

【7月】
1日　帝京大学総合博物館スタッフによる視察受け入れ
1日　学校法人東海大学望星学塾主催オンライン講話「望星研究会」参加
21日　大学史協東日本部会第206回幹事会、第128回研究会参加（於東京都千代田区・法政大学市ヶ谷キャンパス）
22日　学園史資料センター全体業務打ち合わせ（於神奈川県平塚市・東海大学湘南キャンパス）

【8月】
3日　東海大学海洋学部総合資料センターにて収蔵資料点検作業
31日　東海大学付属本田記念幼稚園にて資料調査作業（於神奈川県伊勢原市）

【9月】
8日　デジタル展示室にて松前重義野球殿堂入り記念企画展「松前重義・世界平和へのプレイボール」公開開始
22日　大学史協東日本部会第207回幹事会参加（於神奈川県横浜市・神奈川大学みなとみらいキャンパス）

【10月】
5日　大学史協2022年度総会、全国研究会、見学会参加（～7日、於神奈川大学みなとみらいキャンパス、神奈川県横浜市・神奈川県立公文書館）
31日　デジタル展示室にて学園建学80周年記念企画展「『若き日に汝の～』の呼びかけを心に受け止める―理解から実行へ、未来を拓く希望の言葉として―」公開開始

【11月】
10日　大学史協東日本部会第208回幹事会参加（オンライン形式）
10日　望星学塾主催オンライン講話「望星研究会」参加
16日　望星学塾主催「望星研究会」現地見学会参加（於東京都杉並区・松前国際友好団）

【12月】
7日　東海大学海洋学部総合資料センターにて収蔵資料点検作業
15日　大学史協東日本部会第209回幹事会、第130回研究会参加（於千葉県我孫子市・ABIKOsホール、杉村楚人冠記念館）

【2023年1月】
26日　大学史協東日本部会第210回幹事会、第131回研究会参加（東京都世田谷区・国士舘大学世田谷キャンパス）

【2月】
1日　『東海大学学園史ニュース』No.17発行
14日　第61回学校法人東海大学資料編纂委員会開催（於東京都渋谷区・東海大学渋谷キャンパス）
24日　東海大学医学部付属大磯病院にて資料調査収集作業（於神奈川県中郡大磯町）

【3月】
16日　大学史協東日本部会第211回幹事会、第132回研究会参加（於東京都町田市・法政大学多摩キャンパス）
31日　東海大学学園史資料センター編『東海大学資料叢書11　学部・学科の設置目的・趣旨（2）』発行

Tokai Fashion Club

みなさん、１年ぶりのこんにちは！　学園におけるさまざまな制服の移り変わりを楽しく紹介しながら、アーカイブズ的なポイントもばっちり押さえていこう、という Tokai Fashion Club。今回は東海大学付属静岡翔洋小学校・幼稚園です。学園建学の地である静岡県の清水に、幼稚園は 1958 年、小学校は 1967 年にそれぞれ設立され、付属諸校でも屈指の歴史を誇ります。

それではみんなで声を合わせて、「T.F.C」第 13 回、元気もりもり始まりまーす！！

13th meeting　東海大学付属静岡翔洋小学校・幼稚園

学園史編纂員 徳原 彩恵

東海大学付属幼稚園
1958年4月、開園

始まりは深緑色のスモック

◉付属静岡翔洋幼稚園は 1958 年４月、「東海大学付属幼稚園」として静岡県清水市三保（現静岡市清水区三保）に開園。ほどなくして深緑色の前開きのスモックが園服として採用されました。スモック以外は自由でしたが、後に白のシャツ／ブラウスが、さらに 1988 年ごろからエンジ色のズボン／スカートが指定となりました。

▲スモックの背面中央にはタックが入って、園児たちのダイナミックな動きにも対応▶スモックの左胸部分には園旗のワッペン。スクールカラーの赤色が鮮やかです。左袖部分には山吹色で園章の刺しゅうがあります

◀正装では深緑色の襟なしのスモックに、白のシャツ／ブラウスを合わせました。スモックの前左右には大ぶりのポケットが付いています

▶暑い季節は水色の前開き、袖なしスモックを着用。一番上だけ白い丸ボタンで留め、スナップの隠しボタンが２つ▼背面にはタック入り

▲深緑色の帽子。周囲に６つ、白の飾りボタン。園章の刺しゅうの下には通園バスのコースを縫い付けました。歩いて通う「徒歩コース」の子も▶夏の帽子は白。園章の刺しゅうは紺色です

▲▶開園当初の通園カバン。男子は青、女子は赤を使用していました

◀スモックの下のシャツ／ブラウス。襟元は飾りボタンで、実際はスナップボタンで留めていました。左肩には紺色で園章の刺しゅう。胸ポケットに目印のワンポイントを付けた子も▶エンジ色のスカート。清水が舞台の「ちびまる子ちゃん」が着ていそう！

▼ 1994 年度ごろからエンジ色の蝶ネクタイと紺色のカーディガン／ベストが正装となりました。あわせて帽子やカバンも紺で統一されたようです（夏の帽子は白のまま）

◀開園は仮校舎で迎えましたが、翌 1959 年に園舎が落成しました。園歌にも「お屋根のおんどりコケコッコ　六角屋根のこの園舎」と歌われており、風見鶏と六角屋根は付属幼稚園のシンボルです▼開園から 20 年、1978 年８月に新園舎が落成し、風見鶏も２代目に。東海大学工業高等学校（現付属静岡翔洋高校）の生徒らが卒業に際して制作・寄贈してくれました

たいそうぎ

◀開園当初の初代体操着は白色の半袖の開襟シャツと短パン、紅白帽をかぶりました▶２代目の体操着は 1970 年代半ばから 2000 年代初めまで、長きに渡って着用。白地に紺色で左胸に園章、背中に「TOKAI」と書かれています。紺色の短パンには２本の白ライン入り

2004年4月、園服改定

シックなグレーの装いに大･刷･新！

◉2004年4月、大きく刷新された2代目の園服がお目見えしました。明るいグレーをベースにした園服は、フランスのファッションブランド「Courrèges（クレージュ）」のもの。随所に同ブランドのマークがあしらわれています（2020年度からマイナーチェンジ、以降はマークなし）。靴下は白のハイソックスです（式典時は園章の入った指定のものを、それ以外の時は市販の靴下も着用可）。

◉ジャケット襟元と胴回り、ズボン、スカート。無地のグレーを基調としたシックなデザインに、ギンガムチェックの縁取りが可愛らしさを添えています。スカートは巻きスカートのように見えますが、動きやすいように工夫されています

◀上はジャケットの前合わせに4つ付いたボタン。2020年度以降は下（Cの花文字）の意匠に変更されています。▶ズボンのお腹、スカートの腰を留めるボタン（2020年度以降は無地）

▶夏服は半袖のポロシャツを着用し、麦わら帽子をかぶります。名札の位置は左上腕から胸元に変更。靴下は白の短いものになります（指定なし）

▼帽子にはエンブレムが付いています

▲夏の麦わら帽子は当初、リボンの長いものと、◀つばの後ろが上がった「ハイバック」型の2種類から選べました（2023年度以降ハイバック型は廃止）

◀制服改定と同じ2004年度から通園カバンも変更。▶2020年度から改定された現行のカバンは丸味を帯びた形。紺×白のツートンカラーになっています

◀▶サスペンダーは3点留め、背中はY字になります

2012年4月、清水区三保から折戸の新園舎に移転

2015年4月、認定こども園に移行

2016年4月、東海大学付属静岡翔洋幼稚園に改称

▶3代目となる現在の体操着は、2010年ごろから採用。Vネックと袖（半袖と長袖があります）の切りかえし、左胸のTウェーブと園名（英語表記）などが主な変更点です。肩から袖口、腰から裾にかけての両サイドに赤白2色のラインが入っています

▶体操帽子は学年毎に異なる色を被ります。2023年度は年少が緑、年中が赤、年長が青。黄色は3歳未満のたんぽぽ組で着用。赤い毛糸のポンポン付き

▶2012年度から利用開始となった新園舎でも、六角屋根と風見鶏は健在。モダンな雰囲気になりましたね

東海大学付属小学校 1967年4月、開校

◉付属静岡翔洋小学校は1967年４月、「東海大学付属小学校」として静岡県清水市三保（現静岡市清水区三保）に開校しました。これによって学園に幼稚園から小学校、中学校、高等学校、短大、大学、大学院までの教育機関が揃い、悲願だった一貫教育をスタートさせることとなったのです。小学校の１期生は41名。彼ら、彼女らが身にまとったのが紺色のダブルジャケットに赤いネクタイが映える、凛々しい制服でした。

◀正装。紺色のジャケットはダブルブレスト（前ボタンが２列）×２つボタンで、左胸のポケットに校章の刺しゅう入り。男子は紺色の半ズボン、女子は紺色のボックスプリーツスカートをそれぞれ共布で吊って着用しました。シャツ／ブラウスは白。赤いネクタイは中央付近にオレンジ色で校章の刺しゅう入り。当初はシャツの襟元に「面ファスナー」で留めるタイプでしたが、のちにゴムで留めるタイプへ変更されました。靴は黒のローファー。靴下は当初黒色でしたが1970年代後半から白色に変更されました。

◉帽子は２種類。夏季はグレー、他の季節は紺色の帽子を着用▶高学年男子は吊りひもではなくベルトを使用

▲夏はノーネクタイに半袖シャツ／ブラウス。ブルー、イエロー、ピンクの３色から好きな色を選択でき、お友達と色を揃えたりする楽しみも

◀体操服は男子が白パン、女子が青パンの組み合わせ。その上に着用するジャージは当初、赤・紺・水色の３色から選択可能でしたが、後に赤・紺の２色のみとなりました

紺のダブルジャケットに赤のネクタイで凛々しく

40周年を機にリニューアル！

2008年4月、制服改定

◉付属小学校は2007年に開校40周年を迎えました。これを機に2008年４月から制服をリニューアル。上下共生地のスーツスタイルから上下で生地の異なるブレザースタイルに変更されました。

◀ジャケットはシングルに変更。ほどよく体にフィットして、シルエットをすっきりと見せるデザインになりました。男子のズボンは、低学年（１～３年生）がハーフパンツにサスペンダー、高学年（４～６年生）がスラックスにベルトへと変更されました。色も落ち着いたグレーのチェック柄。女子のスカートは薄いグレーを基調としたチェック柄です

◀上履き兼体育館履き（室内履き）は白地に青のライン▼校庭で体育の時は白の運動靴を履きます

▲通学時に履く靴（外履き）は、低学年は面ファスナーで留めるタイプ▶高学年はローファーです

2012年4月、清水区三保から折戸の新校舎に移転

2016年4月、東海大学付属静岡翔洋小学校に改称

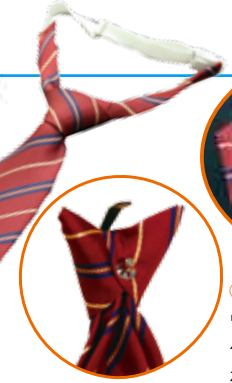
◀紅白帽ならぬオレンジ／白帽子は「カラー帽子」と呼んでいます。学園に於けるスクールカラーとして小学校はオレンジ色と定められており、付属小学校にとって古くから馴染みのある色です

▶ジャージはFILA製、右胸にブランドロゴ、左腕にTウェーブの刺しゅう入り

◀体操着の改定も制服と同時期の2008年度から。男女同じデザインで、半袖と長袖があります（夏服の期間中は原則半袖を着用）

2024年4月、制服改定

◉来春、2024 年度から 3 代目の制服が採用となります。リニューアルのテーマは「地球と家庭にやさしい制服～ SDGs ～」。未来のために、今自分たちができることは何か。児童一人ひとりが制服を通して考えるきっかけになるかもしれませんね。



◉左上から時計回りに、T ウェーブがあしらわれたジャケットのボタン。ネクタイ、リボンは赤を基調としたレジメンタル柄（斜め縞模様）。ネクタイは改定当初ゴムで留めるものでしたが、2021 年度よりクリップで留めるタイプへと変更。通学に使う紺色ベースのリュック。女子夏服、スカートの柄は正装と同じですが素材が異なり涼しく。男子夏服、ズボンの柄は正装と同じ、よく見るとチェック柄です。男女共通のサスペンダーは 4 点留め、背中は X 字になります。オプションで着用可能な白のニットベストは男女共通です

時代に合わせて変化

◀ジャケットのボタンは左右どちらにでも付け替えが可能で、ボタンホールも左右両側にあります。右前にも左前にもなることで、兄から妹、姉から弟への「お下がり」が可能となり、再利用の幅が広がります

◉３代目の制服は「男子／女子」という区別を廃止。「パンツスタイル」（写真左）または「スカートスタイル」（同右）のどちらかを選択して着用することになります。それぞれのアイテムを混ぜること（パンツスタイルを選んだ場合、リボンの着用など）は不可です。正装時に着用するジャケットの左胸には新たにエンブレムが。ボタンとともに花文字で「TS」とあしらわれています。靴下は紺色に変更。長さは通年でふくらはぎの中ほどの丈で統一。

SDGs とジェンダーレス

▲正装時のシャツは無地の白色。ネクタイ／リボンは 2 代目のものを引き継いでいます

◀スカートスタイルの夏服シャツは中央部にもブルーの糸のステッチが。両スタイルともステッチの色が濃くなりました。シャツは新年度を待たずに購入が可能となっており、既に着用している児童も

▲パンツスタイルの夏服シャツは、ボタンとボタンホールにブルーの糸を使用

▲パンツスタイルのズボンにはタックが入り、チェック柄も変更に。上が高学年が着用する、ベルトで留めるスラックス、▶右が低学年のハーフパンツ。腰はゴム入りで、サスペンダーの使用はなくなりました

◀左が正装時のスカート。薄いブルーのチェック柄で、重くなりがちな冬の装いを軽やかに見せます。▶右が夏服。濃い色にすることで透け防止の役割も

◉付属小学校は清水区三保で慣れ親しんだ校舎に別れを告げ、2012 年 4 月、東海大学海洋学部や付属翔洋高等学校・中等部のある同区折戸の清水キャンパス（現静岡キャンパス）内に新築された校舎に移転しました。2016 年 4 月からは「東海大学付属静岡翔洋小学校」と校名を変更。これによって幼稚園から高校までが「静岡翔洋」の名称で統一されました。

◀通学バッグも 2024 年度からリニューアル。先代同様リュックタイプですが、タブレット収納スペースなど、IT 化の進んだ学校生活に対応

◀体操着や靴類について、2024 年度からの変更はありません

✣13th meeting を終えて✣

今回も教職員の皆さんの親身な対応に感謝の気持ちでいっぱいです。取材する中で紹介されたのが、小学校の玄関ホールで来訪者を迎える振り子時計。1967 年、当時の校舎が落成した記念に、１期生の保護者有志から贈られたものです。温かな時報の音色に、私も心が洗われました。

学校法人東海大学学園史資料センターでは、
学園と、学園に集った人々の足跡をたどる資料を収集しています。

各部署や学部学科、機関で保存期間の満了となった文書が発生した際には、当センターまでご連絡ください。
個人として下記のような資料をお持ちの方は、あわせて寄託や移管のご協力をお願い申し上げます。
≪受講・講義ノート、研究資料、書簡、手帳、日記、メモ、写真、記念品、機関誌など≫
※このほか保管に困っている物品、資料になるか不明のものがありましたらご一報ください。

また、学園の歴史に関するレファレンスに応じています。
事項の時期や経緯の確認、記念誌の作成、パネル写真展の企画などの際は、お気軽にご相談ください。

資料提供者一覧　2022年4月～2023年3月

【個人】
石田裕次
大島慎一郎
門向かおる
沓澤智子
沓澤宣賢
竹田正敏
田中滋樹
谷卓見
中村公
村井正己
山田勲

【機関・団体】
株式会社フォトライフ

学校法人東海大学
- 理事長室企画調整課
- 理事長室情報政策課
- 学園事務センター総務ユニット
- 初等中等教育部初等中等教育課
- 病院本部病院運営企画室

東海大学
- ビーワンオフィス企画担当
- ビーワンオフィス教学担当
- ビーワンオフィス施設管財担当
- ビーワンオフィス広報担当
- ビーワンオフィス国際担当
- キャンパスサポートオフィス大学評価担当
- キャンパスサポートオフィス出版担当
- ヒューマンソサエティカレッジオフィス
- ウェルネスカレッジオフィス
- リベラルエデュケーションカレッジオフィス
- グローバルシチズンカレッジオフィス高輪ブランチ
- グローバルシチズンカレッジオフィス渋谷ブランチ
- スルガベイカレッジ静岡オフィス船舶管理担当
- スポーツプロモーションセンター
- スチューデントアチーブメントセンター
- 医学部付属大磯病院
- 付属図書館渋谷図書館
- 旧表千家茶道会

旧東海大学医療技術短期大学
東海大学付属高輪台高等学校
認定こども園　東海大学付属本田記念幼稚園
東海大学菅生高等学校・中等部
東海大学新聞編集部

順不同・敬称略

◉スチューデントアチーブメントセンターから2023年2月17日、旧体育望星学塾関連資料を受け入れ。刊行物など紙資料のほか、看板や餅つきで使用された臼、きねも含まれていました

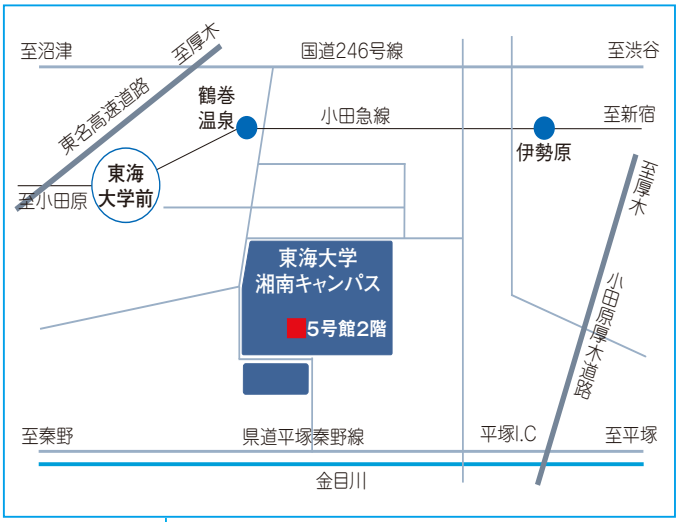
学校法人東海大学
学園史資料センター

〒259-1292　神奈川県 平塚市 北金目4-1-1
東海大学 湘南キャンパス 5号館2階
☎ 0463-63-4700（直通）　FAX（利用を停止しました）
☎ 0463-58-1211（代表）内線 2559
ホームページ　http://www.pr.tokai.ac.jp/gsc/ ▶
メールアドレス　shiryo-center@tsc.u-tokai.ac.jp
フェイスブック　https://www.facebook.com/TokaiUniversity.archives

ア ク セ ス

◉小田急線「東海大学前」駅下車、徒歩25分
または同駅南口バス乗り場から神奈中バス
「秦野駅」「下大槻団地」行に乗車し5分、
「東海大学北門」下車、徒歩10分

◉ JR東海道線「平塚」駅下車、北口バス乗り場から神奈中バス
「東海大学」行に乗車し30分、終点「東海大学」下車、徒歩3分
または「秦野駅」行に乗車し25分、「東海大学正門前」下車、徒歩10分



東海大学学園史ニュース No.18
Tokai University Educational System Archives News

2023年12月15日発行
編集・発行　学校法人東海大学学園史資料センター